校長室だより

学校も家庭も完璧ではない

運動会が終わりました。すべての子どもが意欲的に取り組んでほしいと願って活動してきましたが、「すべての子どもが」と言い切れない現状があります。その子どもなりの頑張りの姿を見せてくれたということでうれしいのですが、本来は「すべての子どもが頑張ることができた、やりきった」と思えるものにしたいと考えながら現実には思うようにはいきません。学校は残念ながら完ぺきではないのでお家の方からもいろいろなご指摘を受けて、修正しながら完ぺきを目指そうと努力をし続けています。

もちろん、ご家庭でも完ぺきに子育てできているということはほぼないと思います。だから学校と家庭、家庭と家庭がお互い協力し合うことが大切だと思っています。

子育ては難しい!!だからこそ、みんなで考えたい

「子どもが言うことを聞かない」という声をいろいろなところで聴くことがあります。中には「親が言っても子どもがその通りにしないから、もうあきらめています」とおっしゃる保護者の方もおられます。詳しく話をうかがうと、やってはいけないことを「アカン」といったあとに家の中で暴れられたり、「家出する」と言われたりしたそうです。親としては「暴れられたら面倒だな」「家出されたらどうしよう」という不安から子どもにきちんと注意できなくなったとのことでした。多くの保護者の方ならこんな経験はあるでしょう。

この場面は、登校をしぶっていた子どもが登校するまでにたどる経過で出くわす場面でもあります。不登校が続いている家庭には、「家庭のルール」を作ってもらいます。大きく2種類のルールです。一つ目は生活リズムを整えること、二つ目はデジタルを制限することです。とくに二つ目のルールを守らせる場面で、子どもは暴れたり、家出しようとしたりすることでルールを覆そうと企てます。親は毅然と「それは認められない」と言い切ることで約束を守ってくれる存在として親への信頼度を高めていきます。逆にルールが簡単に破られてしまうことで親への信頼度は低くなってしまうそうです。

この毅然とすることがとても難しいのだと思っています。家出すると言われたら「あなたが心配だから」と気持ちを伝えて「やめてほしい」と全力で説得します。暴れて物を散らかしてしまったら本人に片づけをさせます。そして暴力をふるったら「暴力は許さない」と伝えて、警察や学校に相談してもらうことも視野に入れても良いかと思います。

「登校しぶり」体験記を交流しましょう

子どもへの対応は千差万別です。だから難しいのだと思います。難しいということは多くの保護者の方々が困っていたり、悩んでいたりしています。その思いを出し合うことで「うちだけじゃないんだ」「こんな風に考えてもいいんだ」と子育てを自分とは違った視点で考えるきっかけになればと「登校しぶりをみんなで考えよう」のお手紙を配布しました。子育ての難しさをみんなで考え、みんなで乗り越えるために体験記の提出をお願いします。書くのは苦手だけど話したいという方は学校まで連絡いただければ聞き取ることも可能です。

みんなでみんなのために知恵を出し合えたらうれしいです。